



地区分割について

地区分割委員長 パストガバナー

重田 政信

○2000年7月から地区分割

1999年6月のR I理事会で、当地区の地区分割が正式に承認され、いよいよ2000年の7月1日から、新潟県が2560地区、群馬県が2840地区として再出発することになりました。地区番号は、地区で最も歴史の古い新潟RCに敬意を表し、新潟が伝統ある2560地区を継承する形で申請致しました。

当地区は1971年に、当時のR I第355地区（新潟、群馬、栃木、茨城）が分割され、栃木、茨城が355地区（後の2550地区）を継承し、新潟・群馬が356地区となって新地区を作りました。その356地区は1977年から256地区と改称され、更に1992年から現在の2560地区に変更されました。

この兄弟地区とも言うべき2550地区は、既に1994年に、当地区の現況より小規模でありながら栃木（2550地区）・茨城（2820地区）の両地区に分割されています。

従って、当地区の分割は遅きに失した観もありますが、それが今日まで見送られてきましたのは、両県がお互いに離れたい魅力を持っていたためでありましょう。

両県は国境の長いトンネルを境にして気候・風土ばかりでなく、県民性や地域文化が大きく異なり、これが一種の異文化交流の魅力となって、両県を互いに引きつける要因となってきました。

また、群馬の経済人に新潟出身者が多いことをみても分かるように、群馬は新潟から東京方面へ進出する際の中継基地としての長い歴史があります。高速道路や新幹線の開通が、両県の一層深め、県境の峻険な山脈という重大な地理的障壁にも係わらず、両県は稀にみる一体感のある地区として機能してきました。

進化とは、古き良き何ものかを失うことを意味します。地区分割によって我々の失うものは決して少なくありません。しかし、あたかも生物が細胞分裂によって発展してきました。地区分割の利害得失や、その経緯につきましては、これまで会長・幹事会、P E T S、地区協議会などで度々申

し上げて参りましたので、ここでは触れません。重田年度月信12号、久保田年度月信9号、久保田年度のP E T Sプログラム、及び久保田・高木両年度の地区協議会報告書などをお読み下さると、その大筋がお分かり頂けると思います。

○これからの課題

地区分割により、両県ともガバナーを毎年選出することになります。宮川ガバナー・エレクトと同時に就任されるガバナーを群馬でも選出する必要があります。また、両県とも翌2001年のガバナー候補者を直ぐに選ばなければなりません。

一方、財団プログラムのように、年度を超えて実施する継続的な事業は、両新地区の協議が必要となります。分割年度においては、P E T S、地区協も共同で開催するのが実際的であるかも知れません。更に、地区資金の分配の問題もあります。

これらの問題はローターアクトでも全く同様であり、地区分割の見通しが不透明であったため、これまで地区分割の情報は乏しく、特にローターアクターにとっては晴天の霹靂の感があると思います。この緊急事態に対して青少年奉仕委員会の皆様のご懇篤なご指導をお願い致します。

しかし、こうした課題が障害となって地区分割が不成功に終わった過去の例はありませんし、また当地区の皆様の英知をもってすれば、これらの問題は必ず理想的に解決されるものと確信致します。

会員増強は我々の常在目標であり、地区分割後の最大の課題は、ロータリーでもローターアクトでも会員増強であります。

また、両県がこれまで営々として築いてきた親睦は何物にも代え難い宝であり、いずれも関係者の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いする所以であります。